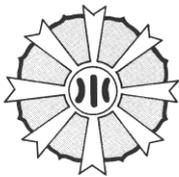


【学校教育目標】 命が喜ぶ生き方を考え、

夢に向かって、自分とふるさとの未来を切り拓く子の育成

～ ふわふわ言葉やきらめき行動を通して ～



# 八条っ子

学校だより No.3

令和4年6月17日

豊岡市立八条小学校



梅雨を迎え、一雨ごとに山々の緑が深まってきました。この時期の雨は、田んぼの苗、畑の作物、円山川を上る若鮎など、多くの命に元気を与えてくれる貴重な雨です。ただ、この雨が多過ぎると自然災害につながります。そうならないことを祈っています。

子どもたちは、1学期を折り返しました。コロナはまだまだ終息しませんが、各学級の朝の会や音楽の授業に歌声が戻ってきました。（但し、マスクは着用しています。）また、先日から、プール水泳も始まりました。引き続きコロナ対策を取りながら、少しずつですが元の学校生活に戻していきたいと思えます。

## 「演劇ワークショップ」(豊岡市非認知能力向上事業)

豊岡市教育委員会では、子どもたちがよりよい社会や幸福な人生を切り拓く「生きる力」の育成のため、非認知能力の向上を目的とした「演劇ワークショップ」を実施しています。「演劇ワークショップ」は、3つのことをねらいとしています。

- ①体や声、言葉を使った演劇的な表現活動をとおして、自分の考えや気持ちを表し、受け入れられる体験をすることにより、児童一人一人の自己肯定感(自分のことが好き)、自己有用感(人の役に立っている思い)を高める。
- ②自分とは異なる考え方や価値観をもつ他者のことを認め、他者と向き合い、自分との違いを受け止める。
- ③自分と他者との違いをすり合わせ、集団の中で思いをまとめる。

※1年生の場合は、主にねらい①の達成を目指しています。

そして、今年度から全小学校1年生で年3回実施しています。

八条小学校においても、6月13日(月)に1年生46名が、学級ごとに「演劇ワークショップ」の授業を体験しました。専門の先生の指導の下、それぞれの学級が45分間の授業を初めて体験し、子どもたちが協働作業で作ったステージの中で、「自分になりたいもの」を動作や音で表現しました。そして、友達が何を表現しているのかを発表し合いました。ステージに入った子どもたちは、動きや音を工夫して表現しました。周りの子どもたちは積極的に手を挙げて発表していました。一人一人が生き生きと学習する姿が見られました。今回の「演劇ワークショップ」を体験する前と後で、子どもたちにアンケートをとりました。すると実施前と後では、「自分から進んで取り組める」とか「やる気になればいろんなことができる」とか「友達に自分の考えたことを話すことができる」などいくつかの項目に上向きの変容が見られました。この授業は、今年度あと2回行われます。これからが楽しみです



【ステージを作る協働作業】

### ※非認知能力とは

学力テスト等の数値では表しにくい内面の力(やり抜く力、自制心、他者と関わる力)のことで、教育活動等を通して繰り返し取り組むことで育ってきます。文部科学省委託研究での分析結果によると、「非認知能力を高めることが学力を一定程度押し上げる可能性がある」ことが明らかにされています。



【「自分になりたいもの」を演じる様子】

# 思い出の 修学旅行！



5月26日（木）～27日（金）の1泊2日で、6年生は広島方面へ修学旅行に行ってきました。コロナ感染予防のため、全行程貸切バス（宮島へは船）を利用しました。天候が心配されましたが、初日の昼食時の一瞬と宮島で少しの間だけ雨が降りましたが、あとは雨の心配もなく、2日目は暑いぐらいの天候となりました。

修学旅行出発にあたり、6年生に次のことを話しました。①修学旅行は勉強のための旅行である。②旅行に行かせていただく家族への、お世話いただいた方々への感謝の気持ちを忘れない。③楽しい思い出をつくるために、いつも「人への思いやり」を大切にする。

まず感心したことは、広島での学習ぶりでした。平和公園にあるたくさんの慰霊碑を巡る学習では、ガイドの方の話を心と目で集中して聴いていました。さらに平和記念資料館では、展示されている資料の前で、一生懸命メモを取って、ここで得た知識と感じた思いを書き留めていました。予定の時間が足りないぐらいの熱心な勉強ぶりに6年生の素晴らしさを感じました。次に、宮島の見学、買い物、ホテルでの一夜、遊園地「みろく里」などの全行程で、子どもたちは八条小学校の最高学年らしく、ルールを守り、元気な声で挨拶ができました。そして、思いやりの心をもって、友達とたくさんの思い出を作ることができました。参加者全員無事に帰校し、有意義な修学旅行を終えることができました。



## 「思いやりの心」をもって

六月の全校朝会で「思いやりの心」について、子どもたちに話をしました。その冒頭に左の詩を紹介しました。

大漁（たいりょう）

金子 みすず

朝やけ小やけだ  
大漁だ  
大ばいわしの  
大漁だ。

浜はまつりのようだけど  
海のなかでは  
何万の  
いわしのとむらい  
するだろう。



「大漁」は、漁師にとってはお祭り騒ぎの喜ばしいことです。一方、いわしにとってはたくさんの仲間の命を失った悲しい出来事です。

一つの出来事も立場、見方が変わるといろんな思いが伴ってきます。日ごろから、相手の気持ちを考えた「思いやりの心」をもった生活を心がけたいものです。